

第3回砂川市総合計画審議会 議事録

日 時：令和元年10月10日 午後3時00分から午後5時00分

場 所：砂川市役所 本庁舎3階 大会議室

出席者：

【審議会委員（会長、副会長、以下五十音順 敬称略）】

会長 其田勝則、副会長 岡本昌昭、石家裕二、大橋俊彦、北市裕之、久保敬介、熊谷仁美、齊藤邦宏、佐々木孝一、佐藤大将、瀬戸敏子、高村雄渾、松原重俊、明円 亮、山崎義彦、山田 巖

欠席者：河端一壽、高西浩未、坪江利香、中道盛之、八戸めぐみ

【砂川市関係者】

総務部長 熊崎一弘、市民部長 峯田和興、保健福祉部長 中村一久、経済部長 福士勇治、建設部長 近藤恭史、建設部技監 小林哲也、教育次長 河原希之、市立病院事務局長 朝日紀博、市立病院事務局審議監 山田 基、消防長 青木 治
消防本部次長 袖野款司

【事務局】

政策調整課長 井上 守、政策調整課長補佐 玉川晴久、政策調整課企画調整係長 谷地雄樹、政策調整課企画調整係主任 藤田美穂、政策調整課企画調整係主事 長谷川 亮、政策調整課企画調整係主事 高橋宏輔

1. 開会

総務部長：皆様、本日は大変お忙しい中、御出席をいただきまして、大変ありがとうございます。ただいまから、第3回砂川市総合計画審議会を始めます。

2. 会長挨拶

総務部長：それでは、はじめに其田会長からご挨拶をお願いいたします。

会 長：皆様ご苦勞様です。第3回目の総合計画審議会を開催させていただきたいと思っております。8月の末から9月にかけて、それぞれの部会で第1回目の専門部会をやっていただきました。様々な意見が出て、時間もかなりおした中での開

催でしたが、2つの部会を同じ日にやっていたのでかなり時間が長かったのではないかなと思いますけれども、そういったことを土台にしながら、この審議会ですらにフィードバックして組み立てていくというなかたちになるかと思しますので、今後もますます部会での皆様の発言を大いに期待しております。よろしくお願いいたします。それでは、速やかな審議ができることを期待しながら、挨拶に代えます。本日はよろしくお願いいたします。

総務部長：ありがとうございました。本日は、委員 21 名中、現在のところ 16 名の出席をいただいておりますので、会議は成立しておりますことをご報告いたします。会議の議長は、会長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

3. 議事

(1) 報告事項

会 長：それでは、次第に沿って進めて参ります。はじめに、(1) 報告事項ということで、専門部会が開催されましたので、専門部会の実施状況について事務局より説明をお願いいたします。

事 務 局：まず、審議会専門部会の実施状況についてのご報告となりますが、はじめに、本日お手元にお配りした資料についてご説明します。1点目は、次第の差し替えになってございます。2点目ですが、市民意識調査結果報告書の、市民分の全編差し替えと、中学生分の一部差し替えページについてお配りしています。まず、市民意識調査結果報告書の変更内容、また、第 1 回目の各専門部会で行った報告事項に関して、ご説明します。

事 務 局：それでは私の方から、市民意識調査について修正箇所のご説明をしたいと思います。お手元の青い冊子「市民意識調査結果報告書」をご覧ください。以前お配りした調査結果については、アンケート期間終了後に提出された分が集計に反映されておりましたが、今回提出のあった 11 件を追加し、再集計を行っております。それにより、若干数値等の変更がありましたので、今回ご説明をしたいと思います。まず 4 ページをご覧ください。4 の回収状況についてですが、回収数が 11 通増えたことにより、回収数が 598 件、回収率が 39.9%に増えているところでございます。続きまして 20 ページをご覧ください。問 7「まちづくりへの満足度、重要度」

に関する回答の部分になります。20 ページから 21 ページにかけて、まちづくりに対する満足度がポイント順に掲載されておりますが、うち左表の満足度上位 20 項目をご覧ください。ここでは 6 項目の順位が変わっておりますので、以下 1 つずつご説明をしたいと思います。

1 点目が、「図書館などの学習施設の充実」が 11 位から同率 10 位に上がっております。続きまして、「交通安全対策」が 13 位から 12 位に上がっております。続きまして、「幼児教育の充実」が 14 位から 15 位に下がっております。また、「犯罪の未然防止対策」が同率 17 位から同率 18 位に下がっております。

「芸術や文化に親しむ施設や機会の充実」が同率 19 位から同率 18 位に上がっております。「公園などの整備や利用のしやすさ」が同率 19 位から同率 18 位に上がっております。

また、右の表は満足度下位 20 項目になりますが、そちらは 2 つの項目の順位が変わっております。

1 つ目は、「砂川への移住や定住の促進」が同率 15 位から 16 位に下がっております。「弱者見守りなど地域における支援体制づくり」、「高等学校教育の充実」、「効果的で効率的な行政運営」が同率 18 位から同率 17 位に上がっております。

続きまして、21 ページ下段をご覧ください。こちらは今後取り組むべき重要度についてポイント順に掲載されております。うち左表の重要度上位 20 項目をご覧ください。ここでは 8 項目の順位が変わっておりますので、以下 1 つずつご説明をしたいと思います。

まず、「消防・救急体制の充実」が同率 3 位から 2 位に上がっております。「地震や風水害などへの防災対策」が同率 3 位から 4 位に下がっております。

22 ページをご覧ください。「生活道路の整備状況」、「商店街の活性化と中心市街地のにぎわい」が同率 11 位から同率 10 位に上がっております。「犯罪の未然防止対策」が同率 10 位から同率 13 位に下がっております。「介護保険制度の充実」が 14 位から同率 13 位に上がっております。「計画的で健全な財政運営」が同率 16 位から 17 位に下がっております。「公共下水道の整備」が同率 18 位から 20 位に下がっております。「子育てにかかる費用負担軽減支援などの充実」が 20 位から同率 18 位に上がっております。

21 ページにお戻りください。右下の表は重要度下位 20 項目になりますが、そちらは 4 項目の順位が変わっております。

「芸術や文化に親しむ施設や機会の充実」、「情報通信ネットワーク環境の充実」が同率 6 位から同率 5 位に上がっております。

22 ページをご覧ください。「市民参加による、まちづくりの推進」が 12 位から同率 10 位に上がっております。「砂川への移住や定住の促進」が同率 18 位

から 20 位に下がっております。「観光産業の発展やイベントの充実」が 20 位から同率 18 位に上がっております。これに伴って、23 ページの満足度・重要度の位置も変わっているところでございます。

続いて、36 ページをご覧ください。問 14「砂川市がどのようなまちになったらよいと思いますか」の設問です。36 ページから 37 ページにかけて、年代別の回答順位を記載しております。青い網掛け部分が上位の部分となりますが、その上位 3 つに変更があった 4 項目についてご説明したいと思います。

40 歳代では、「いつでも安心して医療が受けられるまち」が 2 位から同率 1 位に上がっております。50 歳代では、「産業（農業、工業、商業）が盛んなまち」が 2 位から同率 1 位に上がっております。60 歳代では、「高齢者や障がい者などにやさしい福祉のまち」が 4 位から同率 3 位に上がっております。70 歳以上では、「産業（農業、工業、商業）が盛んなまち」が同率 1 位から 2 位に下がっております。

続いて、39 ページをご覧ください。問 16-1「中心市街地の活性化」についての設問です。その中で 2 項目の変更があります。

「買い物の合間に利用できる休憩場所や飲食業の充実」が 2 位から 1 位に上がっております。「品ぞろえ（商品構成）の拡充」が 1 位から 2 位に下がっております。市民意識調査結果の変更点については以上になります。

また、中学生アンケートについても、若干の変更があります。3 ページの配布数及び回収率についてですが、配布数を 133、回収率を 96.2%に変更しております。こちらはこのページのみでの配付になりますので、皆様の方で後程差し替えていただければと思います。

また、第 2 回審議会で、「子どもワークショップ」の実施及び市民意見「砂川市がめざすまちの姿」の募集についてご説明をさせていただきました。本来であれば今回の審議会で、実施結果等についてのご報告をするところですが、8 月 28 日、30 日、9 月 3 日に開催しました各専門部会においてご報告をすでにいたしておりますので、内容については省略させていただきたいと思えます。私からは以上です。

事務局：それでは、引き続き、私から審議会専門部会の実施状況について、ご報告いたします。資料 1 をご覧ください。

はじめに、各部会の会議の開催状況でございますが、記載の、第 1 部会から第 3 部会まで、8 月 28 日から 9 月 3 日までの間に、それぞれ第 1 回目の会議を開催したところでございます。会議では、市策定委員会から示された「たたき台」に対して質疑や意見交換を行ったところですが、報告事項や、「たたき台」として示した資料の量が多かったこともあり、市からの説明時間が多

く、意見を伺う時間をあまり持てませんでしたので、次回以降の会議では、委員さんから意見を伺うことを中心に進めてまいりたいと考えております。なお、皆様からいただいたご意見につきましては、次ページ以降のシート、右側の「第1回審議会部会委員意見等」欄に記載しています。

このシートの見方についてですが、2ページ目をご覧ください。それぞれ部会ごとに1枚にまとめています。左側には、第6期総合計画の体系を記載しており、矢印から右側が、今回委員の皆様にご協議いただいた、第7期総合計画に向けてのご意見を整理した項目でございます。

また、いただいた意見につきましては、意見や要望と受け取れる部分について、右側の「基本事業イメージ」の項目の分類に振り分けて記載しているところがございます。

主な内容をいくつかご紹介したいと思います。まず、2ページ目の「総務部会」についてですが、まず新たな施策1の②「広報広聴活動の推進」の部分では、広報を、若者を中心に多くの人に読んでもらえるような手法の検討、手法としてはスマホを利用したダイレクトに通信する仕組みづくりについて。基本施策2の①「地域コミュニティの推進」の部分では、町内会活動の活性化、若い世代の参加意識が高まるような取り組みの必要性、子どもと大人が活動を一緒にできる仕組みづくりについて。

次ページになりますが、「教育・文化・スポーツ部会」に関してでございます。

まず、基本施策1の①「生涯学習の推進」の部分になりますが、高齢者を孤独にしない、学習の場に引き出すことの大切さについて。基本施策2の⑥「教育環境の充実」の部分では、学校の適正配置に関する7計での記載のし方の難しさについて。基本施策3の②「読書活動の推進」の部分では、子どもたちが読書に親しめる環境づくりについて。

次ページになります。「生活環境・防災部会」に関する部分です。まず、基本施策1の①「廃棄物の適正処理とリサイクルの推進」の部分では、不法投棄対策やゴミ分別の徹底、周知・PRが市民に伝わる工夫について。次に、基本施策4の②「防犯活動の推進」や、基本施策6の②「地域防災力の向上」の部分では、活動の拡大や組織数の拡大に向けた取り組みについて。

次ページになります。「医療・保健・福祉部会」に関する部分です。まず、基本施策1の③「高齢者が安心して自分らしく暮らせるサービスの充実」の部分では、外国人人材も含めた「介護人材の確保」について。基本施策6の③「医師等の人材確保・人材育成、組織の活性化」の部分では、市立病院だけではなく、個人病院も含めた開業医の確保対策について。

次ページになります。「産業振興部会」に関する部分です。基本施策1の④「担い手の確保と育成支援」の部分では、農業だけで生活できる農家、後継者を

育てることの必要性、若い農業経営者の規模拡大や農業が儲かる仕組みづくりについて。基本施策 2 の①「中小企業の経営安定化」の部分では、企業の人手不足解消のための金融機関との連携のあり方について。同じく 2 の②「商店街の活性化」の部分では、後継者不足への対策、よそからの継承者があった場合などの受け入れ体制づくりについて。基本施策 4 の①「魅力ある観光の推進」の分部では、シャッターアートなどによるインスタ映えを狙った広域観光について。

次ページになります。「都市基盤部会」に関してですが、基本施策 1 の①「冬期間の安全な通行の確保」の部分では、国道の流雪溝路線における、除雪が行き届かない箇所の除雪体制の強化、特に農協から市立病院までの重要路線のアクセス確保について。基本施策 3 の⑤「空き家等の活用・適正管理の推進」の部分では、空き家の民間企業による宿泊施設としての活用について。空き家の処分を考えている高齢者などに、片付けも含めた販売につなげるような紹介制度の必要性について。

以上、多くの意見をいただきました。これら意見につきましては、今後の基本事業や基本施策の「たたき台」の見直し、また、基本事業の目標（ねらい）の設定、更には新たな事務事業を検討する際に参考にさせていただきたいと思っております。

次に、資料の 1 ページに戻りまして、「次回の会議について」であります。まず、次の専門部会では、第 1 回専門部会において、委員の皆さんから出された意見、取りまとめを終えた市民アンケート結果を基に、市策定委員会専門部会で修正を加えた「たたき台」について意見交換を行い、再度、専門部会にフィードバックをしながら内容を整理していきたいと思っております。また、施策化に向けては、修正を加えた「たたき台」を基に、「今後砂川市が 10 年間はこうあるべき」として各委員の考えを伺うことを中心に「基本事業」と「基本施策」の項目をかためていき、併せて、基本事業における目標（ねらい）についても協議を進めます。

以上、審議会専門部会の実施状況についての説明を終わります。

会 長：ただいま、各部会での審議の内容について、ざっと説明をいただきました。皆さんが発言した内容等で確認しておきたいことがありましたら、ご発言をお願いしたいところですが、皆さん何かお気付きの点はございますか。まず、第 1 回目なので皆さんまだ言いたいことの 2 割、3 割しか言っていないのではないかとお思いますので、2 回目、3 回目でどんどん組み立てていただきたいと思います。意見がなければ報告事項は以上にしたいたと思いますが、特にございませんか。

～ 質疑等無し ～

会 長：ないようですので、報告事項は以上とさせていただきます。

(2) 協議事項

会 長：続いて、(2)協議事項に入りたいと思います。はじめに、①「まちづくりの課題等について」ということで、事務局お願いいたします。

事 務 局：それでは、①の「まちづくりの課題等について」ご説明申し上げます。資料2をご覧ください。はじめに資料の訂正がございます。4 ページになります。4 ページの④に太字のタイトルで「価値観の変化やライフスタイルの多様化」とあるのですが、「価値観やライフスタイルの多様化」に修正いただきたいと思っております。同じ部分で、7 ページの3、「時代の潮流」の(4)も同じく「価値観やライフスタイルの多様化」に修正いただきたいと思っております。

それでは、資料の説明に入ります。まず、ここでは、資料1 ページから4 ページにかけて「時代の潮流の設定について」と、5 ページの「本市におけるまちづくりの課題について」、ご説明します。

はじめに、なぜこの「時代の潮流の設定」が必要になるかということをご説明させていただきます。資料の7 ページに全体構成の図がありますので、そちらをご覧ください。

前回の第2回審議会におきまして、「第7期総合計画の基本構成」についてご説明を申し上げたところでございますが、その中で、全体の序論部分となります「計画の策定にあたって」につきましても、計画策定における総論として、1の「総合計画の考え方」、2の「砂川市の概要」、そして3の「時代の潮流」を盛り込む構成としているところであります。

これらの策定につきましては、まず、1の「総合計画の考え方」は「総合計画の策定方針」に基づいて策定します。2の「砂川市の概要」につきましては、「砂川市の現状」に基づいて、これまで審議会にお諮りした資料に基づき、設定させていただく部分でございまして、3の「時代の潮流」と「まちづくりの課題」の部分が、今回、協議事項として提案させていただいたところでございます。

この「時代の潮流」につきましては、「砂川市を取り巻く社会環境の変化や地域の特性、まちの課題を示すもの」として設定することとしておりますことから、今回は、この部分をわかりやすいように、「時代の潮流」と、それに関わる砂川市の「まちづくりの課題」という部分に分けて整理させていただきます。

たいと思います。なお、ここでは、「時代の潮流」や「まちづくりの課題」の認識が、次の 8 ページにありますように、基本構想の部分となり、「砂川市のめざす都市像」などを導き出すうえでの基礎となりますことから、非常に重要な項目と考えています。

それでは、まず、「時代の潮流」をどのように捉えるかということになるのですが、1 ページをご覧ください。「時代の潮流」の設定については、今後のまちづくりを進めるにあたって、国や北海道、更には社会経済の長期的な動きや方向性など、時代の変化を的確に把握し、速やかに対応することが重要となり、また、ここでの認識が将来像や各施策を策定するうえでの基礎となってくるものであります。

この「時代の潮流」は、第 6 期総合計画の策定から盛り込まれたものであり、6 期策定時においては、国の情勢に加え、北海道の今後の方向性など、広い視野で時代の流れを捉える必要があったことから、北海道が平成 20 年 3 月に策定した「新・北海道総合計画」における「時代の潮流」、さらには他自治体の「時代の潮流」などを参考にしながら、本市としては、記載の通り、(1)の「少子高齢化と人口減少の進行」から(7)の「地域主権の進展と厳しい財政運営」までの、7 つを項目としたところです。

また、当時の「新・北海道総合計画」では、参考に記しているように、①「人口減少・超高齢化社会の到来」、②「グローバル化の進展」、③「深刻化する地球環境・資源エネルギー問題」、この 3 点が項目としてあげられていたところであり、この 3 点の項目を、本市においても同様に着目して「時代の潮流」として捉えたところであります。

それでは、第 7 期の「時代の潮流」の設定に向けて、今の時代をどう捉えるかになりますが、2 ページ目をご覧ください。

まず、こちらでは「北海道総合計画」の中で、「時代の潮流」をどう捉えているかを記載しています。現在の「時代の潮流」は 6 項目ございまして、1 つ目に「人口減少と高齢化の急速な進行」、2 つ目に「経済成長の動向」、3 つ目に「グローバル化と高度情報化の更なる進展」、4 つ目に「地球環境問題の深刻化と資源・エネルギー事情の変化」、5 つ目に「大規模自然災害リスクの高まり」、6 つ目に「都市部への人口集中と地方の過疎化の進行」としております。それぞれ 6 つの視点が書かれているところですが、全て紹介すると時間がかかることから省略したいと思います。最後の 6 点目「都市部への人口集中と地方の過疎化の進行」では、全道的にも札幌へ人口が集中して、その他のまちでは人口が減っているというところがございます。

いずれにいたしましても、人口減少社会の到来を迎え、日本全体が直面する状況があげられており、各項目、相互に密接な関係がある項目になっており

ます。

第7期総合計画においては、平成23年以降の社会情勢の変化や、資料3でも整理させていただいておりますが、最近総合計画を策定したまちの「時代の潮流」を整理しています。左側が砂川市の6期の項目と、7期のこれから載せようとしている項目となります。項目ごとに分けて横並びに整理しております。このように、砂川市が入れようとしている項目に対して、他のまちがどのように設定しているかを一目で見ることができるよう表としています。あとは、今ほど説明しました、北海道の考えなどを踏まえながら、砂川市として第7期ではどういった項目にしていこうというところが、4ページに記載しております。まず1つ目は、人口減少と少子高齢化の急速な進行、2つ目として、グローバル化と高度情報化の更なる進展、3つ目として、環境問題に対する認識の高まり、4つ目として、価値観やライフスタイルの多様化、5つ目として、安全・安心に対する意識の高まり、6つ目として、地方分権の推進と持続可能な行財政運営、そして7つ目として、SDGsの推進。以上のようなものを予定しております。この最後のSDGsの推進につきましては、近年になって全国的に取り進めようという動きがある中、総合戦略も含めてどのように計画の中に盛り込んでいくべきかという流れから、まずは全体に関連する項目ということで、「時代の潮流」の中で表現してけたらと思います。

これで、7項目について、北海道と重複しているものは1番、3番、4番、5番で、同様に着目したところであります。

以上7点としましたが、これはあくまでも事務局案として項目のみを提案させていただいたところでありまして、本日、委員の皆様にご審議をいただき、具体的な内容については、今後詰めていきたいと考えております。

続きまして、「本市におけるまちづくりの課題について」、ご説明します。資料5ページをご覧ください。ここでは、「まちづくりの課題」を整理するにあたり、今ほど提案させていただきました、4ページの「時代の潮流」の7つの項目と併せて、今、まちづくりに求められているもの、必要とされているものを検討して整理をしようとするものであります。

特に、まちづくりに求められているもの、必要とされているものにつきましては、市民意識調査から結果として表れたところであります。市民意識調査報告書の20ページの間7の部分で、市民が求めている部分の項目となります。そちらで満足度が低い施策は当然まちづくりに求められていることということで、こんな課題があるのではないかと。そして、重要度が高いと考えている施策についてもまちづくりに必要とされていることからすると、上位10項目が今現在の市民の求めているところとなるかと思っております。まずは「時代の潮流」とアンケート調査から考えられる市民の求めるものを合わせまして、

まちづくりの課題の項目について検討しているところでございます。

この課題につきましては、資料 4 に「時代の潮流」からくる課題や、市民意識調査から見える課題について整理しています。これら整理したものを束ねて、事務局が考えているまちづくりの課題ということで、3つの項目としています。まずは「社会状況の変化に対応したまちづくり」。次に、「安心して暮らせるまちづくり」。最後に、「持続可能なまちづくり」。まず大きく3点を課題としまして、それにぶら下がるかたちで、それぞれもう少し細かな課題が挙げられるのではないかとということで整理しています。

こちらについても、事務局案ということで、今日委員の皆様から意見をいただいて、今後「時代の潮流」とともにまとめていきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。説明は以上です。

会長：ありがとうございました。非常に難しい説明になったかと思えますけれども、一応北海道の時代の潮流と言いますか、社会的な課題というものが挙がっていきまして、そしてアンケートから見えた砂川の課題を整理して、事務局の案となっております。最初に「時代の潮流」というので、砂川だけではなく大きく日本が抱えている、北海道が抱えているような課題ということで、「時代の潮流」として事務局案が6項目プラス1という形で出ています。この部分で何か気が付いたことがありましたら、ご意見をいただきたいと思いますがいかがですか。

どのまちも抱えている課題と言えは課題になるのですが、社会状況はやはり刻々と変わっています。「時代の潮流」と併せて、市民の意識調査から市民が持っている砂川の課題、今満足していない部分はこの辺だよ、というのを本市のまちづくりの課題としてピックアップしています。ここの部分についても併せて、ご意見があれば伺いたいと思うのですが、皆さんいかがでしょうか。

～ 質疑等無し ～

会長：ございませんか。この2つをまとめ、資料4のように課題が3つの項目で整理されています。こちらも含めていいです。こちらも含めて、皆さんの方から気が付いたこと、これはどうでしょうかなどの意見があれば伺いたいのですが、ありませんか。

なかなか意見が出ないようでございますけれども、事務局の方で整理したものをまずよく理解しなければいけないというのが皆さんにはあるのだと思います。少し時間が必要という感じがしますので、とりあえずは事務局の案でま

ちづくりの課題の基本的な項目が整理されたということを 1 回おさえて、何か意見があればまだまだ審議会は続きますので、言っていただければと思います。

それでは、意見等ありませんので、①「まちづくりの課題等について」は終わらせていただいて、②に移りたいと思います。②「将来像について」ということで、事務局より提案願います。

事務局：それでは、②の「将来像について」ご説明いたします。資料につきましては、資料 2 の 9 ページをご覧ください。

ここでは、「砂川の将来像」ということで、「めざす都市像の策定について」、ご説明させていただきます。

この「めざす都市像」につきましては、基本構想の部分にあたる「砂川市が 10 年後にめざすまちの姿」を表すもので、まちの良いところ、伸ばしていきたいところ、誰もが共有できる可能性などをイメージして表現するものです。第 6 期総合計画では、「安心して心豊かに いきいき輝くまち」と表現したところではありますが、第 7 期総合計画においては、新しい「砂川市のめざす都市像」をどのようなものにしたらよいか、というところの協議となります。策定にあたっては、いきなり具体的な表現を検討するのも難しいと思いますので、まずは、これからの「まちづくりのキーワード」や「まちのイメージ」など、大きな括りの部分で出し合っていければいいのかなと思います。例えば、砂川市が 10 年後に向けてめざすことはどんなところだろうかとか、まちの良いところですかとか、伸ばしていきたいところはどこなのか、そして、誰もが共有できるものはどんなものがあるのか、というところを中心にして話していければいいのかなと思います。

また、参考として、市民が望む砂川の将来像ということで、アンケートでも設問でありましたし、それとは別に「砂川市がめざすまちの姿」で募集をし、集計した中で、項目の多いものやキーワードとなる言葉がどんな言葉が多かったのかということ、10 ページにまとめています。こちらについては特に事務局の案は今のところ用意しておりません。市民アンケートだとかでこのようなキーワードがあるよというところでお示しはしたのですが、本日委員の皆さんにこれを含めてキーワードを出し合ってください、それをもとに今後都市像を作っていきたいと思いますので、意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

会長：目指す将来像、皆さんが心の中に思っている、将来に向けて砂川はこんなまちがいいなという、いわゆる理想のかたち、自分が思っている将来の砂川の

あり方。6期の「安心して心豊かに いきいき輝くまち」のように、いわゆるキャッチフレーズみたいな、砂川の将来を表すキーワードを皆さんからそれぞれ出していただきたいという風に思います。砂川では、やはりいろんなキーワードがあろうかと思えます。医療もそうですし、高齢者が多いのもそうですし、優しい人が多いだとか、いろんな話をいろんな場所で聞くのですが、それぞれ皆さんが思っている砂川のイメージとして、こういう砂川がないというようなキーワード、これはぜひとも1人1ずつでも良いので出していただきたいなと思います。まず気が付いた方いましたら発言願います。

委員：先ほどの「時代の潮流」について、事務局に質問があります。「時代の潮流」の事務局案の中の、人口減少と少子高齢化の急速な進行という部分で、こちらをずっと読んでいっても、教育だとか子供たちのことは一言もふれられていないような。他の市町村を見ても、教育関係のことは意外と載っていないのだなど。そういうものは必要のない項目というか、全部包括されてしまっているのかなと思って見ていました。この部分についてはどうなのでしょう。

事務局：「時代の潮流」につきましては、あくまで大きな部分と言いますか、広いところで表現されていきます。そういうことから考えれば、具体的な学校ですとか、個別な部分はなかなか入ってこないのかなとは思いますが、いろんな計画を見ていると、書き方によっては、全体的にはこうなんですけれども、うちのまちとしてはこういう課題がありますよというような書きぶりをしているところもありますので、それはこれから文章的なところを作っていく中で、みんなで協議しながらやりたいとは思っています。

委員：多分適正配置だとか、いろんな問題というか、これからの課題が砂川にはあると思います。その辺も踏まえた10年間であると思うので、その辺のところはどうなのかなということを感じて、意見を言わせていただきました。それで、基本構想の私の目指す都市像という部分について、私の中のキーワードが「生涯にわたって暮らせるまち」。砂川市は出産がこのまちでできる恵まれた環境にあるまちであり、高齢者についても、おそらく福祉さんやいろんな部分で、介護も砂川市は充実しているのではないかと私は思っています。じゃあ、その中間はどうなのか。保育所に関して待機児童とか現状がどうなっているのかわかりませんが、多分そんなにいる訳でもないし、そういう意味では恵まれたまちなんじゃないかと思えます。ただ、子どもたちが例えば高校を出て大学を出て、砂川に戻ってくるとなった時に働く環境があるのか、あるいは住環境はどうなのか、そういうことがきっと今後の課題に

なってくるのではないか。多分これから10年、20年先、砂川市の人口がどんどん減っていく中で、子どもたちに戻ってきてもらわないことには結局人口は増えないと思いますので、私としては「生涯にわたって暮らせるまち」がキーワードなのかなと思っています。

会長：ありがとうございます。子供から高齢者まで、生涯にわたって安心して暮らせるようなまちを目指したい。立派な意見です。他にございませんか。砂川のまちを考えてどうでしょうか。当然、市立病院というすごく立派な医療機関がありますし、病院があるので砂川に住みついた高齢者もいますし、そういったような医療関係。そして、教育関係も今言ったように、未来に向けての適正配置について今さかんに議論されておりまして、そういったような子供たちの教育。そして、生涯学習の方も今は文化協会やゆう、公民館などいろんなところで子供から大人まで生涯学習ができるような環境にある中、皆さんはどう思っているのかなということを考えながらいくと、キーワードが出てきそうな気もするのですけれども。いかがでしょうか。

委員：キーワードといった感じでもよろしいでしょうか。「探求心を持って暮らし続けたいまち」。今のお話と似ているのですが、どこかに行ってしまうのではなくて暮らし続ける、このまちで暮らし続けたいということを目指すようなまちが良いのではないかなと思います。

会長：このまちで暮らしたいという感情が生まれるという感じでしょうか。

委員：そうです。いろんなことに興味を持って関わりながら、暮らし続けられるような、そんなイメージがいいなど。

会長：ありがとうございます。

委員：意識調査などを見ても、いろんなキーワードがあるので、それをピックアップするというよりは、それを総評して「住み続けたいまち」だとか、さっきおっしゃっていたように「暮らし続けたいまち」といったようなキーワードがじっくりくるなと個人的には思っています。

会長：わかりました。子供たちも本当はどちらかと言ったら、住み続けたいんですよね。できれば砂川に住みたいけど、仕事がないだとかで、地方から都会へ行ってしまふ。そういった子の声を聞くと、砂川が懐かしいと言っている。

だから、そういったような社会基盤を整えることは必要ですし、そのためには経済的な営みが砂川で出来るのかといった大きな課題も残っているので、そのことも含めていかないと、住み続けたいという希望があっても住み続けられるかどうかというのは別問題で。それが本当に大変で、行政や民間がいろんな施策をやっていかなければと思うのですけれども。今の中学生や高校生もこういうことは考えていると思うので、子どもたちの夢を叶えてあげられるようなまちになりたいですね。他にございませんか。

委員：人口減少、少子高齢化を基準として考えますと、当然砂川というのは産婦人科も充実しているし、この近辺では強みのところだと思いますので、やはりこれを何年後まで続けなければいけない、将来的にもやはり今の強みを、市立病院などの医療を核とした強みで持っていかなければならないのかなと。当然その後の教育はとても重要ですし、その先の起業や就業といったところに行く。ここに書かれている通り、全てがキーワードとして関連していることかなと思います。医療、福祉、安全安心、子ども、子育て、高齢者、若者、仕事と、全てがつながりますので、どれこれと1個には決められないのかなと思いますけれども、思いとしては皆さん方がおっしゃったことと同じでございます。

会長：ありがとうございます。それでは、端の方から発言されていない方、1人ずつ発言をお願いいたします。

委員：いっぱいありすぎて、これをまとめるのは大変だろうと思うんですけれども、やはり大事なのは、先ほども言っていましたけれど、暮らし。空き家がたくさんあるので、ああいう空き家ってなんとかならないのかなと。黙っていたらただつぶれるだけで、最終的には所有者もわからないで税金で壊すのかなとか。そういうことを考えたら、やっぱりもっとそういうところを個別ですけれども、深く掘り下げて。項目がたくさんあって、どれも大事なんですけれども1つ1つやっていくしかないのかなと思っております。

委員：こんなまちがいいなというキーワードというか方向性を自分で考えると、「生まれてから亡くなるまで必要なサポートが受けられる、全ての人に優しいまち」かなと思いました。もう1つ言わせていただくと、例えば歌志内で義務教育学校を作るだとかのように、砂川もいろんな方向がこの10年間で決まっていきたいと思います。その中で、砂川らしいかたちは何なのだろうというのが、私の中で一番大切だと思っています。例えば、テレビに出るような東京の学

校で、宿題はない、何もない学校があつて、それがすごく良いと言われる。それがずっとそうなのかはわからないですけど、ここの公立学校はすごいな、砂川のここに行きたいんだと思えるような、そんな学校づくりをまちは目指してほしいと、私はすごく感じています。この砂川でこの教育を受けたいと思えるような学校ができるといいなと。そのチャンスがこの10年間だと思っています。あと、介護に関しても、ここにいれば死ぬまで大丈夫だと思えるような、サポートを十分受けられるし、生涯学習も十分いろんなことがやれるような、そんなまちづくりを砂川市としてやってもらえれば、砂川に住みたいという高齢者がどんどん増えてきてくれれば、それだけですごく充実したまちになっていくんじゃないか。そういう特色のある砂川市を、他市町から見ていいなと思える、生まれてから死ぬまでそんなまちであってほしいなと思います。

委員：6期の目指すまちのすがた「安心して心豊かに いきいき輝くまち」というのを今見て、これから10年先を見ると、市立病院だとかは先ほども出ていますから、「安心して」は良いと思いますけれども、「いきいき輝く」というのはどうも10年後の砂川とはちょっと違うような感じがしています。これを参考とすると、「安心して心豊かに」というのを「心おだやかに」。皆さんが言われるように、みんなで作っていくまちだとか、住んでいくまちだとか、そういう感じになるのかなというのが、私の考えです。

委員：キーワード1つ1つはごもっともなところなんですけど、ここに行政でもやっている移住定住ということを考えるのもそれはそれでよろしいんですけども、子どもたちが砂川から出ていかないまち。それには全てのことが絡んでくると思います。教育もそうですし、産業など働く場所もなければ子どもは出ていく。そして、高齢化社会になって、福祉が充実したまちになれば、当然介護する人がいるから若者が増えるのかもしれませんが、そういうことでもっとまちの魅力を出すためには、駅前開発も今絡んできていますけれども、そのあたりを集中して若者にもっと魅力のあるまちづくり。高齢者にとっては、公園もたくさんありますし、介護施設もありますし、充実しているのかなと。ただ、若い人がいなければこのまちは成り立っていかないというところもありますので、そういう人たちにとっての魅力をどういう風に作っていくまちにしていったらいいのかなということを考えております。

委員：皆さんの言う通りだと思いますけれども、立地的に言いまして、砂川は旭川と札幌の間にあつて、国道12号も走っているということで、私の個人的な意

見としては、国道12号沿いのまちは人口が減少してもなんとか残れるのかなという感じがしています。そして砂川は医療だとかも充実していますので、立地的にも砂川の面積は小さいものですから、コンパクトにまとめて、医療だとか教育だとかいろんなことのバランスが良い、そこに暮らす人たちが暮らしやすいまちづくりをしていくと、いろんなことを持ちこたえられるのではないかなという考えでいます。

委員：私もUターンというか、戻ってきた立場なんですけれども、意外と砂川って立地の良いまちなんですよね。旭川と札幌の中間にありますし、新千歳空港にもそんなに時間がかからずに行けて、どこへでも行ける。人口が減っている中で増やすためには、移住したくなるようなまちになればいいのかなというのと、先ほどおっしゃっていた、やはり福祉です。高齢化社会ですので、高齢者に優しいまちといいますか、高齢者が移住してくるようなまち。来ると医療費がたくさんかかると思われるかもしれませんが、何年前に大泉洋さんがやったドラマがあって、その中で大泉さんは市長か町長の役をやっていて、福祉のまちに変えるんだというドラマがありました。まさに何かを目玉にしてやらないと、人は集まってこないということですので、キーワードにはなりませんけど、何かそういう方向に持っていけたらなどは思っています。

委員：総合計画のキーワードですから、いろんなかたちにそれぞれ入れていってもしようがない。総合計画の中にはやはり主な大項目があって、その下に中項目がある。まだ中項目の段階でしかないと思います。したがって、その下にはいろんなものがついてくるので、それは担当事務局を含めて検討されるんだろうと思うんですけれども、先ほどから皆さんが言っているように、いわゆる全体的な社会基盤の充実を図りながら、安心安全な生活ができる、そういう地域活性化ができれば、人はそれぞれ集まってくるのではないかなという風に思います。キーワードですから、あまり細かいことを入れたってしようがない。以上です。

委員：皆様のご意見とも重なるところはあると思うのですが、キーワード、イメージを一括りにするのは難しいと思います。何を目指していくのかというところで、例えば1つフォーカスを当てるとしたら、満足度が高いものを維持するという考え方を主軸として動くのか、今満足度が低いものを改善するという考え方を軸にして動くのかと、その2つの括りで個人的には考えていました。9ページ目の市民が望む砂川の将来像の①から⑩を全くの個人的主観で見

させていただくと、市民満足度の低いものと重なる部分としては、②の産業が盛んなまち、⑥出産や子育てがしやすいまち、あとは今まであまり取り上げていないのですが、⑨観光資源を活かし多くの観光客が訪れるまちという、この辺が伸ばしていきたいもしくは変わっていくという部分でいくと、この10個の項目から見ると、そこが重点的と見ることができるのかなという気がします。例えば、医療の問題とか、都市基盤が整備されているとか、公園とかは、正直近隣の市町村、道内の各市町村と情報を立場上意見交換をしたことが何回かあるんですけども、砂川は正直に言わせていただくと優位性があるというか、良い部分があると思います。そこから考えると、市民満足度が低いものを見て、今言った②、⑥、⑨という部分が中心になるのかなという風に思いました。以上です。

委員：皆さんからいろんな意見がありまして、どの方のキーワードも当てはまってくるのかなと私も思っていて、トータルすると、一人ひとりがやはりこのまちを想えるようなまちにしていくというところが、キーワードになってくるのかなと思っています。子どもから高齢者までがこのまちを好きになるとか、このまちに希望とか夢とかそのようなことを常に抱けるようなところが、どうしてもキーワードになってくるというところで。先ほどSDGsの中にも出ていましたけれども、誰一人取り残さない世界にしていくというキーワードの中で、この砂川市にも当てはまってくるというのかなと思っておりました。個人的に言うと、やはり私も最初から、子どもとか高校生とか中学生といった、これからこのまちを作っていく世代が、この砂川のまちで教育や子育てを受けることができればずっとこのまちに住み続けることができる、といったような流れを作っていくことが、これから先10年間の中では、非常に重要になってくるのかなとは思っております。適正配置の問題もこれから出てくると思いますので、そこに重点的とは言いませんけれども、なるべく、高齢者も含めた市民の方全員が子どもたちに目を向けられるようなまちにしていくと、おそらく今後10年、20年と、このまちはもっともっと先へ続いていくのかなとは個人的には思っておりました。以上です。

副会長：ほとんど皆さんのおっしゃる通りなのですが、市民がお互いに助け合う、その中で安心して生活ができるまちづくりを、非常に抽象的なんですけれども、目指したいなという気もしますし、あとは、助け合える安心する土壌を生むまちづくり。1点だけで申し訳ありませんが、以上になります。

委員：最後になります、多分これから人がどんどん少なくなっていくので、私たち自身が動かなければいけないといったことが結構増えてくるのではないかと思います。イメージとしてなんですけど、子どもと一緒に育ち、人としてみんなが成長できるまちというようなイメージもいいなと、皆さんのお話を聞いていて思いました。以上です。

会長：ありがとうございます。私も最後に1つだけお話ししたいことがあるのですが、安心して一人ひとりがこのまちを愛し続けてこのまちに住みたい。すごくわかります。そうなんですけれども、元気なまちや有名なまちは、行政が頑張っているのではなくて市民の人が頑張っているまちが多いんですよね。多分、役所がやってくれるだろうという時代はもうだめなんだろうと思います。そこに頼りきって誰かがやってくれるといった時代ではなくて、やはり市民というかまちを愛する人たちが支えあって、ともに作りあげていくまち、みたいなものがこれからないと、良いまちはできていかないのではないかと。それはいろんな分野でやると思うので、つまり市民が頑張るよ、と。前から言っている協働というか、行政と市民がともにこのまちを作っていくというような大きなイメージじゃないと、誰かがやってくれるだろうということでは誰か一部の人だけが大変になってしまうので続かない。そういうこともあると思うので、私が一番言いたいのは、市民が頑張って、子どもから高齢者までともに支えあっていきたいと思いますか。他に言い忘れたこととか、これだけは言いたいとかありますか。なければ、いろんなことが出たので事務局が大変だと思いますけれども、色々出たものを事務局で整理していただいて、ある程度素案を事務局でまとめていただくということよろしいですか。次回の会議までにまとめていただくということで、目指す都市像についてはお願いしたいという風に思います。

会長：②までは以上となります。次に、③人口の推計について、事務局から説明をお願いします。

事務局：それでは、協議事項③の「人口推計について」、ご説明したいと思います。

資料6をご覧ください。

本日、協議事項として提案しますのは、将来人口の推計人口についてであります。参考資料としてご提案させていただきます。こちらにつきましては、第7期総合計画の中では非常に重要な部分でございますので、審議会全体で審議する前に、「市民参画・コミュニティ・行政運営部会」の方でじっくり協議を進め、その後、審議会に諮るといった進め方で良いかというのが

本日の提案となります。

人口につきましては、第6期総合計画では、国立社会保障・人口問題研究所、社人研というのですが、そちらで推計すると平成32年の目標人口は16,567人だったのですが、単純な住民基本台帳の直近の数字をもとに市独自で出した数字は16,816人となりました。この直近の数字で出した推計を活かし、推計人口としては社人研の方ではなく、独自推計した16,816人として、それにいろいろな施策を付け加え、さらに17,000人まで増やそうという目標人口を立てて、第6期総合計画は組んだところでございます。

第7期総合計画についても、現在人口減少社会と言われている中で、推計人口を何人として考え、将来人口を何人とするかが課題となっており、大変難しいところだと思っております。

ここで、若干お時間を頂きまして、作成した資料について説明させていただきたいと思っております。

資料の1ページであります。国勢調査による人口を載せています。昭和35年から載っていますけれども、直近の平成27年の国勢調査では、砂川市の人口は17,694人となっており、10年前の平成17年が20,068人ですので、この10年間で2,300人ほど減少しております。国勢調査年以降の人口がどうなっているかについては、下に平成28年から30年の住民基本台帳を載せています。こちらについても減少傾向にございます。国勢調査と住民基本台帳の人口については、人口と世帯の概念が違いますので、若干ずれが生じていますけれども、人口が年々減ってきている状況については同様でございます。

続きまして、2ページをご覧ください。「年齢3区分別人口の推移」になっております。上段が「人口の推移」、下段が「人口構成比の推移」のグラフになります。

上段の「人口の推移」を見ますと、0歳から14歳までの年少人口（オレンジ色）と15歳から64歳までの生産年齢人口（ネズミ色）が減少する一方で、65歳以上の老年人口（黄土色）が増加しており、この老年人口については、下段の「人口構成比の推移」のグラフでもわかるように、どんどん増えており、平成27年の国勢調査の時点では、総人口の4割近くを占めております。続きまして、3ページをご覧ください。「5歳階級別人口構成」になっております。右下の図が平成12年、左上の図が平成27年となりますが、少子化の影響もあり、足元から痩せ細ってきている状況が見られます。また、毎回そうなのですが、20歳から24歳の男性人口が、就職や進学の際にあたる部分が、減少しているのが目立ちます。

続きまして、4ページをご覧ください。「自然動態」（出生・死亡）ですが、出生については、グラフ青色部分となります。平成20年以降は110人前後で横

ばいに推移していましたが、平成 27 年から平成 29 年にかけては 100 人を下回っています。

また、死亡については、グラフオレンジ色部分ですが、平成 21 年以降は 200 人を大きく上回ってきており、出生と死亡の差である自然増減は、ここ数年間、平成 28 年から 30 年までは、170 人前後で推移としている状況でございます。

続きまして、5 ページをご覧ください。「合計特殊出生率の推移」ですが、全国が青色で、砂川市はオレンジ色となっています。全国的には、2003 年から右肩上がりになっていますが、先ほどの出生数でもわかるように、砂川市は毎年少しずつ出生数が減っておりますので、出生率については減少傾向にあります。出生率については、ベイズ推定値というものを使っておりまして、2008 年から 2012 年までの数値はすでに確定しているため、その数値が入っております。2013 年から 2017 年の数値はまだ確定しておりませんので、この部分については単純に 5 年間の平均値を入れておりますので、数値の出し方に若干差が出ております。

続きまして、6 ページをご覧ください。「社会動態（転入・転出）」についてであります。転入については、グラフ青色部分ですが、平成 23 年くらいから年間 600 から 700 人の間で横ばいに推移しています。また、転出については、グラフオレンジ色部分ですが、ここ 10 年間で 800 人を上回る年もありましたが、ここ 3 年くらいは、700 人前後で推移しております。これにより、転入と転出の差である社会減については、50 人前後で推移している状況であります。続きまして、7 ページをご覧ください。ここでの数値は、自然増減と社会増減を合わせたものとなっています。現在では、200 人を超えるくらいの人数で推移している状況です。ここまでが国勢調査等に基づく実績になりまして、次からが将来人口の推計の部分となります。推計にあたっては、先ほどもお話しした社人研、国立社会保障・人口問題研究所という厚生労働省で設置しております機関が、平成 30 年 12 月に公表しました「日本の市区町村区別将来人口」の数値を、まずは推計値としていきたいと考えています。

推計方法につきましては、8 ページの(2)以降に掲載しております。推計値については 10 ページをご覧ください。このページに表を掲載しているのですが、社人研の推計値が、4 本の線の一番下の線（黄色▲）でありまして、こちらが平成 30 年 12 月に社人研が公表した人口となっています。それが、下の表で言いますと③に「社人研推計（H30 公表）」とありますので、まずはこちらが参考にしていく部分となります。次に、その上の部分、下から 2 本目の線（青■）は、その社人研の数値を基に、平成 27 年度に人口推計を総合戦略の関係で作ったのですが、その時に出生率については伸びるであろうというところ

で、国も北海道も同じような推計をする時に人口を伸ばしてしまっていて、その考えに基づいて出生率に手を加えた場合の若干上昇した数値を、まずは出しました。それが下の表にある、④の「市独自推計（7計参考用）」の部分になります。あと、上2本の線については、平成27年に人口ビジョンを作成した際に使用した社人研の数値が青●の線、そして、それに手を加えた砂川市人口ビジョンの数値が一番上のオレンジ色の線となっています。

ここで、③の社人研推計(H30公表)を見ていただきたいのですが、令和2年、2020年の社人研の予想数値が16,210人と今は出ています。この人口がはたしてどうなのかということを見ていきますと、下の方に令和元年9月末の人口を載せているのですが、ちょうどこの予想数値の1年前にあたるということになります。これを見てみると、住基上、16,872人がいることになりまして、砂川市の人口が大体年間200から250くらい減っているんですけども、16,872人からその人数を差し引いても、今社人研が想定している16,210人よりは多いのではないかということが見えており、社人研の今の数値も少なめではないかということが言えるのかなと思っています。そうしますと、今度の7計で目標人口が令和12年、2030年になるのですが、こちらの人口については、落ちすぎなのではないかということが見えているところでございます。

次に11ページをご覧ください。11ページから13ページは、平成30年の社人研の数値と、その数値における出生率に手を加えた数値との比較をしております。出生率のみ手を加えたものであるため、当然人口のずれは下部分の若い年齢層部分のみとなっております。

最後に、14ページになります。こちらが住民基本台帳において、単純に年間何人減ったか年平均を出し、その年平均を今後の目標年まで、単純に1年間で232人ずつ毎年減っていったら令和12年は何人になるかというのを推計したものです。そうすると、社人研が出した令和12年の数値が13,176人となっており、住基で推計すると、14,396人と推計することができ、1,220人ほど多く推計されています。住基人口を求めるにあたって、今は実際の単年平均と言いますか、実際に減少した数字を差し引いていますが、減少率で落としたらどうなのかですとか、他にも手法がありますので、それを今後の部会の中で示しながら、どの推計人口に持っていき、さらに推計人口がこうだからもう少し施策を頑張れば人口はプラス何百名となり15,000人となるだとか、そういうところを部会の中で協議を進めていき、その後全体に諮っていきたいと考えているところであります。

まずはこの協議について、部会で協議を進めていくというところの提案となりますので、よろしく申し上げます。

会 長：ただいま、人口推計について事務局から説明がありました。総合計画では、人口の設定はやはり重要な要素になるんですけども、今聞いた人口推計について、何か皆さんからご質問などあれば発言をお願いします。ございませんか。現実には数字をはじくと悲惨な数字しか見えないのですが、そこに夢を乗せていくというのが大事なことかなとは思いますが。

～質疑等なし～

会 長：今事務局から提案がありましたように、この後の人口推計については部会、「総務部会」と言われている「市民参画・コミュニティ・行政運営部会」で、この資料を基に推計の数値を出して提案したいということで進めたいのですが、よろしいですか。それでは、今後の人口推計については部会で協議を進めていきたいと思えます。

長い時間ありがとうございました。協議事項①から③まで終わりました。④の「その他」ですが、皆さんの方からご意見、言い忘れたことはございませんか。なければ、協議事項は以上となります。

4. その他

会 長：最後に「4. その他」になりますが、事務局から何かございますか。

事 務 局：先ほど「めざす姿」の中で用意した資料の中で、資料5「各市の『都市像』について」ということで、各まちの都市像について拾っています。今日皆さんから意見をいただいたんですけども、引き続きこちらを参考にしながら何かございましたら、こんなフレーズや言葉がいいなだとかを考えていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

会 長：ありがとうございます。次回の会議の開催についてはまだ決まっていないということでよろしいですね。

事 務 局：今後の会議の開催予定については、まずは庁内の専門部会を開催し、たたき台を煮詰めていくのですが、予定では11月の中旬までにまとめられればよいと考えています。ですので、中旬から下旬にかけて、それがまとまり次第、審議会の部会を開催することとなります。全体会議については未定です。

会 長：ありがとうございました。皆さんからも、何かございますか。無ければ、2時間あまりという長時間の会議となりましたが、第3回総合計画審議会を閉会とさせていただきます。ご苦勞様でした。